

春が来たと感じる小鳥 ショウビタキ（ヒタキ科） 全長 14 センチ

暖冬となった今シーズンは積雪も少なく、バードウォッチングに出かける機会が圧倒的に多くなった。それでもまだ寒中の2月、真冬の真ただ中です。いつ大雪になるか油断は出来ません。

悪天候が続く日は外出もせず、春の渡り鳥を思いだしながら過去の映像を眺めていると、ハッとするような鮮やかさのショウビタキの写真が目にとまった。

10数年前の4月に撮影したものだが、雄雌共に鮮明にとらえていた。冬鳥として渡来するが、北東北の積雪地よりも南の地域で越冬します。そのため県内で観察されるのは、繁殖地へ向かう早春のころです。



ショウビタキ、メス。

オスは特に鮮やかさが目立つので、遠目でもよく目立ちます。

しかしメスは地味であり、オスと一緒に行動している時にやっと撮影できました。オスメスの違いはどこか、また同じ部位はどこかなどをじっくりと眺めながら、春を待ちわびています。



クリッとした目が可愛い。



オス。かなりカラフルな模様です。



オス。



オス。尉（じょう）は翁の意味でオスの頭が銀髪のようなことからついたと言われるが、可哀想な気がする。